

## 音楽ビジネス研究科 シラバス

科目名	音楽ビジネス研究演習(番組企画)		担当教員名	坂本 充勇
時間数	60	必修・選択	配当年次	1年次※1年制
曜日・時限		選択	教室	703号教室
授業の到達目標	舞台に必要な基礎知識並びに安全作業及び職業環境に対する意識向上を身に付ける			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する			
舞台機構・舞台図面・舞台用語の基礎知識。また公演組織の役割。さらに現場での作業に必要な初歩の安全衛生について。				
【実務経験】株式会社スタッフユニオンにて勤務。舞台監督、美術に従事。2018年より株式会社ザ・シンフォニーホール ステージマネージャーとして勤務。				
回数	授業形態	内容		
1	演習	前期授業概要説明・到達目標と目的の説明など		
2	演習	舞台機構 現代の舞台の名称と役割		
3	演習	尺貫法とヤード・ポンド法 / 図面の読み方		
4	演習	舞台機構 古典(能)舞台の名称と役割 (歴史的背景を踏まえて 五行思想など)		
5	演習	舞台機構 古典(能)舞台の名称と役割 (歴史的背景を踏まえて 五行思想など)		
6	演習	舞台用語解説		
7	演習	舞台用語解説		
8	演習	舞台用語解説		
9	演習	舞台用語解説		
10	演習	舞台用語解説		
11	演習	舞台用語解説		
12	演習	安全衛生教育①(舞台に必要な基礎知識の確認)		
13	演習	安全衛生教育②(舞台に必要な基礎知識の確認)		
14	演習	安全衛生教育①(安全作業及び職業環境に対する意識の確認)		
15	演習	安全衛生教育②(安全作業及び職業環境に対する意識の確認)		
準備学習 時間外学習	たくさんの作品を観ましょう。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	筆記試験50% 出席率50%		
教材	教科書	自作編集の冊子		
	参考書	特に無し		
学生への メッセージ	舞台で使用される言葉・機構・物の歴史的背景を学び理解を深めましょう。			

## 音楽ビジネス研究科 シラバス

科目名	音楽ビジネス研究演習(コミュニケーションスキル)		担当教員名	北林 圭
時間数	30	必修・選択	配当年次	1年次 前期
曜日・時限			教室	801
授業の到達目標	<p>コースの垣根を越えて分け隔てなく繋がりを形成し、新たな環境に自分が置かれた時の対処法・コミュニケーション能力を培う。前期終盤には後期へ向けて、自分自身の前期の振り返りと、後期の目標をクラス全員の前で発表できるようになる。</p>			
授業の内容	<p>産業カウンセラー4年、委託でOSMで3年間授業を担当。</p> <p>体感型ワークと自己を見つめる(自己受容)プリントワークを使用。 1対1での会話、1対多数での会話・主張を実践。人前で自分の考えや想いを伝える練習。 授業を通して、自分や周りのクラスメイトの新たな魅力を発見する。 ※学生の状況などで、予告なく授業内容を変更する場合がございます。</p>			
【実務経験】	産業カウンセラー4年、委託でOSMで3年間授業を担当。			
日程	授業形態	内容		
1週	演習	オリエンテーション/ファーストコミュニケーション実習・総当たりインタビュー		
2週	演習	他者紹介・短時間でクラスメイトについて知る		
3週	演習	傾聴 ・ 話の聞き方で印象の受け方・与え方を感じる (メラビアン の 法則)		
4週	演習	目標設定・短期から長期の目標を掲げ、何が必要かを認識する		
5週	演習	捉え方 ・ 自分の事柄の考え方、捉え方の傾向を知る		
6週	演習	捉え方 ・ 自分の事柄の考え方、捉え方の傾向を知る		
7週	演習	ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック		
8週	演習	ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック		
9週	演習	ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック		
10週	演習	ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック		
11週	演習	ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック		
12週	演習	ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック		
13週	演習	ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック		
14週	演習	ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック		
15週	演習	後期の振り返りのプリント記入		
準備学習 時間外学習	プレゼンテーションの事前準備と原稿確認			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	1. 実技 80% 2. 筆記 10% 3. 課題 10%		
教材	教科書			
	参考書			
学生への メッセージ	人間の悩みはほとんどが対人関係から生まれている言われています。得意・不得意はあると思いますが、切っても切れない部分ですので、皆で楽しく学び、ご自身の目標達成に生かしていきましょう！			

## 音楽ビジネス研究科 シラバス

科目名	音楽ビジネス研究演習(コミュニケーションスキル)		担当教員名	北林 圭
時間数	30	必修・選択	配当年次	1年次 後期
曜日・時限			教室	801
授業の到達目標	<p>コースの垣根を越えて分け隔てなく繋がりを形成し、新たな環境に自分が置かれた時の対処法・コミュニケーション能力を培う。前期終盤には後期へ向けて、自分自身の前期の振り返りと、後期の目標をクラス全員の前で発表できるようになる。</p>			
授業の内容	<p>産業カウンセラー4年、委託でOSMで3年間授業を担当。</p> <p>体感型ワークと自己を見つめる(自己受容)プリントワークを使用。 1対1での会話、1対多数での会話・主張を実践。人前で自分の考えや想いを伝える練習。 授業を通して、自分や周りのクラスメイトの新たな魅力を発見する。 ※学生の状況などで、予告なく授業内容を変更する場合がございます。</p>			
【実務経験】	産業カウンセラー4年、委託でOSMで3年間授業を担当。			
日程	授業形態	内容		
1週	演習	オリエンテーション/ファーストコミュニケーション実習・総当たりインタビュー		
2週	演習	他者紹介・短時間でクラスメイトについて知る		
3週	演習	傾聴 ・ 話の聞き方で印象の受け方・与え方を感じる (メラビアン の 法則)		
4週	演習	目標設定・短期から長期の目標を掲げ、何が必要かを認識する		
5週	演習	捉え方 ・ 自分の事柄の考え方、捉え方の傾向を知る		
6週	演習	捉え方 ・ 自分の事柄の考え方、捉え方の傾向を知る		
7週	演習	ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック		
8週	演習	ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック		
9週	演習	ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック		
10週	演習	ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック		
11週	演習	ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック		
12週	演習	ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック		
13週	演習	ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック		
14週	演習	ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック		
15週	演習	後期の振り返りのプリント記入		
準備学習 時間外学習	プレゼンテーションの事前準備と原稿確認			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	1. 実技 80% 2. 筆記 10% 3. 課題 10%		
教材	教科書			
	参考書			
学生への メッセージ	人間の悩みはほとんどが対人関係から生まれている言われています。得意・不得意はあると思いますが、切っても切れない部分ですので、皆で楽しく学び、ご自身の目標達成に生かしていきましょう！			

## 音楽ビジネス研究科 シラバス

科目名	音楽ビジネス研究演習(映像読解力)		担当教員名	林 耐治	
時間数	60	必修・選択	配当年次	1年次 前期	
曜日・時限			教室	A503	
授業の到達目標	<p>映像を制作していく上で、最低限必要とされる知識の習得。</p> <p>撮影、編集、CGの基礎的な技術の習得。</p> <p>映像作品を形成する、シーン構成、構図、色、カットニング、カメラワーク、被写体への演出などの意味を理解。</p>				
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>ドラマ、CM、イベントやコンサート動画、ドキュメンタリー、ライブ中継と豊富な経験をもとに映像制作のノウハウを多岐にわたって指導していきます。基本的には1コマ目を講義。2コマ目を演習の時間としていきます。講義では映像制作に必要な知識や考え方、演出方法などを教えます。演習は2種類。1つ目は、デフォルトとして毎回、課題を与え、ipadを利用して全員に30秒～1分程度の映像作品を制作してもらいます。もう一つは、スペシャルとして前期、後期各期に1作品、外部のスタジオなどを利用してPVを制作します。これは、学生全員で監督、プロデューサー、カメラ、編集などの役割を決め、1つの音楽作品を作る大掛かりな取り組みです。</p> <p>【実務経験】 ドラマ・CM、イベントやコンサート動画、ドキュメンタリー、ライブ中継など</p>				
回数	授業形態	内容			
1	演習	映像についての概要とimovieの使い方を指導。課題音楽をベースに簡単なPVを制作。			
2	演習	編集についての基礎(カットニングとモンタージュ)			
3	演習	撮影についての基礎1(構図)			
4	演習	撮影についての基礎2(カメラワーク)			
5	演習	絵コンテを描いて撮る①(対話シーン、単純な人物の動き)			
6	演習	絵コンテを描いて撮る②(複雑な人物の動き)			
7	演習	撮った映像を編集する。ADOBE PremiereとAfter Effects①			
8	演習	撮った映像を編集する。ADOBE PremiereとAfter Effects②			
9	演習	撮った映像を編集する。ADOBE PremiereとAfter Effects③			
10	演習	撮った映像を編集する。ADOBE PremiereとAfter Effects④			
11	演習	簡単なミュージックビデオ制作			
12	演習	簡単なミュージックビデオ制作			
13	演習	簡単なミュージックビデオ制作			
14	演習	簡単なミュージックビデオ制作			
15	演習	簡単なミュージックビデオ制作			
準備学習 時間外学習	撮影するPVの素材の確認と必要機材の準備と機能についてを調べる				
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	1.授業に対する取り組み姿勢 50% 授業内で制作する作品および提出課題の出来 50%			2.
教材	教科書	講師より適時、プリントを配布			
	参考書	月刊誌 ビデオサロン (玄光社より毎月 発行)			
学生への メッセージ	映像業界への就職のためには授業以外の時間でも、自主制作に取り組むことが不可欠です。				

## 音楽ビジネス研究科 シラバス

科目名	音楽ビジネス研究演習イベントプランニング		担当教員名	水島 秀樹
時間数	60	必修・選択	配当年次	1年次
曜日・時限		必修	教室	LS1
授業の到達目標	コンサート、ライブ、イベント全般通じてアーティスト、ゲストが楽しめる空間の構築。 ノークレームを目指す			
授業の内容	イベントコンセプトの共有等ミーティングから、制作についての実務を行い、当日までのスケジュールを作成する。コンセプト、テーマを理解し、クライアントの要望に応えられる内容を制作し、他学科の学生と共有していく。			
【実務経験】1990年大阪スクールオブミュージック専門学校卒業。その後東宝芸能と契約、各テーマパーク等でダンサーとして活動、バンドとしても活動を行い1998年CDデビュー。2001年より東京スクールオブミュージックにてヴォーカルコース、企画コースを担当。				
	日程	授業形態	内容	
1	1回	演習	コンセプトミーティング	
2	2回	演習	各演目リーダー顔合わせ	
3	3回	演習	第1回テクニカル、運営ミーティング	
4	4回	演習	リハーサル見学&各演目とのコンセプトミーティング	
5	5回	演習	テクニカルリハーサル	
6	6回	演習	第2回テクニカル、運営ミーティング	
7	7回	演習	クオリティチェックサポート	
8	8回	演習	演出ミーティング	
9	9回	演習	演出ミーティング & テクニカルミーティング	
10	10回	演習	全体リハーサル	
11	11回	演習	最終テクニカル、運営ミーティング	
12	12回	演習	全体リハーサル	
13	13回	演習	現場全体リハーサル	
14	14回	演習	本番	
15	15回	演習	振り返り	
準備学習 時間外学習	多くのアーティストのライブ映像をみておく			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	実技課題100%		
教材	教科書			
	参考書			
学生への メッセージ	1年間頑張った成果をたくさんの方に見てもらい、出演者からたくさんの「ありがとう」をもらいましょう！ そして来年、更なるレベルアップをしていきましょう！			

## 音楽ビジネス研究科 シラバス

科目名	サウンドエンジニアリング研究演習(Hレコーディング)		担当教員名	前川 祐一郎	
時間数	60	必修・選択	配当年次	1年次 前期	
曜日・時限		選択	教室	903	
授業の到達目標	<p>「学んだ基礎知識を活かし、ゆっくりでも確実な作業ができるようになる。」入学して最初の半年ですので、まずは確実な作業ができるようになりましょう。ゆっくりで構いません。使い方・やり方をただ覚えるだけでは、様々なレコーディング内容や環境に対応できません。学んだ基礎知識を一つ一つ理解しながら、何度も繰り返し作業することで身につきます。スピーディーかつスムーズにレコーディングができるようになるには、まずはゆっくりでも確実な作業を心がけましょう。</p>				
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>スタジオの様々な機材は何のために設置されていて、それら機材の一つ一つの機能は何のために備わっていてどのように使うのかを学び、理解して、実際にレコーディングが執り行えるようになりましょう。機材の使い方だけでなく、スタジオで作業する様々な役割の人たちとどのようにコミュニケーションをとってレコーディングが行われているのかも学び、実践できるようになりましょう。</p> <p>【実務経験】1997年にM-bar Studioにてレコーディングエンジニアとしてキャリアをスタートしました。2000年にフリーランスとして独立し、翌2001年からはプライベートスタジオを中心に様々な音源制作に参加しています。レコーディングスタジオでのレコーディングに限らず、ライブハウスやコンサートホールなどへ機材を持ち込んでのレコーディングもこなしています。生楽器のレコーディングのみならず、作曲編曲アプリケーションで自ら打ち込みも行なっていますので、様々なジャンルの楽曲制作に対応しています。</p>				
回数	授業形態	内容			
1	演習	はじめに スタジオの準備と後片付け～電源のON/OFFの順番などスタジオで作業するためのセッティングやマナーを知る。			
2	演習	Monitor Sectionのコントロール ～ スピーカーを鳴らすためのセッティングを学ぶ。エンジニアを目指す者としてのサウンドの聴き方を知る。			
3	演習	音源の起ち上げ(Mic Input)～Micをミキサーに起ち上げるために必要な様々な音響基礎知識を学ぶ。			
4	演習	音源の起ち上げ(Line Input)～ Mic以外の機材をミキサーに起ち上げるために必要な様々な音響基礎知識を学ぶ。			
5	演習	音源の起ち上げ(INST Input)～ E.GtやE. Bassをミキサーに起ち上げるために必要な様々な音響基礎知識を学ぶ。			
6	演習	DAWシステムについて(Pro Toolsの基本)～ Pro Toolsの基本について学ぶ。			
7	演習	DAWシステムについて(Bus OutputとDirect Output)～ スタジオにおけるミキサーとレコーダーの回線システムについて学ぶ。			
8	演習	Digital AudioとAnalog Audio～ デジタルオーディオについて学び、レコーディング時に気をつけなければならない事項を知る。			
9	演習	Micについて～ Micの基礎知識を学ぶ。			
10	演習	CUEシステムについて～CUEシステムについて学び、レコーディングがどのように進められるのかを知る。			
11	演習	ミキサーの基本(AUX)～ AUX機能について学び、エフェクターを使えるようになる。			
12	演習	ミキサーの基本(INSERT)～ INSERT機能について学び、エフェクターを使えるようになる。			
13	演習	レコーディング実習～ ミュージシャンを迎え、これまでに学んだ知識を活かして実際にレコーディングを実践する。			
14	演習	ワークショップ			
15	演習	ワークショップ			
準備学習 時間外学習	<p>これまでに「聞」いてきた様々な楽曲を「聴」き直してください。これから出会う楽曲は「聴」きましょう。どんな楽曲にどんな楽器が使われていて、そのサウンドで自分がどんな気持ちになるのか、他のリスナーはどんな気持ちになるだろうか？と考えながら聴いてください。歌詞を読み、作詞家・作曲者はその楽曲で何を表現したいのか？アレンジャー・プレイヤーは作詞家・作曲者の表現したいものをどのように表現しているのか？それらをエンジニアはどのようにレコーディングし、ミキシングしたのか？様々なことを想像して聴いてください。意味のない音は鳴っていません。正解は分からないかも知れませんが、そうやって音を聴いて考えることが、いつか自分がエンジニアとして制作に携わるときの下敷きになります。</p> <p>スタジオの様々な機材を使って、自分がどんなサウンドを奏でたいのかを養って行きましょう。</p>				
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	授業内での実習に関わる姿勢(60%)と、課題の提出(40%)で評価します。 1. 実技試験 0% 2. 筆記試験 0% 3. 課題 40%			
教材	教科書	なし			
	参考書	なし			
学生への メッセージ	技術的な専門用語が多く、難しい授業の印象を受けますと思いますが、出来るだけ易しく説明をします。分からないところはどんどん質問してください。後に見返した時に自分への教科書になるように、ノートをとってください。				

## 音楽ビジネス研究科 シラバス

科目名	サウンドエンジニアリング研究演習(Hレコーディング)		担当教員名	前川 祐一郎	
時間数	60	必修・選択	配当年次	1年次 後期	
曜日・時限		選択	教室	903	
授業の到達目標	<p>「学んだ基礎知識を活かし、ゆっくりでも確実な作業ができるようになる。」          入学して最初の半年ですので、まずは確実な作業ができるようになりましょう。ゆっくりで構いません。使い方・やり方をただ覚えるだけでは、様々なレコーディング内容や環境に対応できません。学んだ基礎知識を一つ一つ理解しながら、何度も繰り返し作業することで身につきます。スピーカーかつスムーズにレコーディングできるようになるには、まずはゆっくりでも確実な作業を心がけましょう。</p>				
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>スタジオの様々な機材は何のために設置されていて、それら機材の一つ一つの機能は何のために備わっていてどのように使うのかを学び、理解して、実際にレコーディングが執り行えるようになりましょう。機材の使い方だけでなく、スタジオで作業する様々な役割の人たちとどのようにコミュニケーションをとってレコーディングが行われているのかも学び、実践できるようになりましょう。</p> <p>【実務経験】1997年にM-bar Studioにてレコーディングエンジニアとしてキャリアをスタートしました。2000年にフリーランスとして独立し、翌2001年からはプライベートスタジオを中心に様々な音源制作に参加しています。レコーディングスタジオでのレコーディングに限らず、ライブハウスやコンサートホールなどへ機材を持ち込んでのレコーディングもこなしています。生楽器のレコーディングのみならず、作曲編曲アプリケーションで自ら打ち込みも行なっていますので、様々なジャンルの楽曲制作に対応しています。</p>				
回数	授業形態	内容			
1	演習	電源のON/OFFの順番など、スタジオで作業するためのセッティングやマナーを知る。			
2	演習	スピーカーを鳴らすためのセッティングを学ぶ。エンジニアを目指す者としてのサウンドの聴き方を知る。			
3	演習	Micをミキサーに持ち上げるために必要な様々な音響基礎知識を学ぶ。			
4	演習	Mic以外の機材をミキサーに持ち上げるために必要な様々な音響基礎知識を学ぶ。			
5	演習	E.GtやE.Bassをミキサーに持ち上げるために必要な様々な音響基礎知識を学ぶ。			
6	演習	Pro Toolsの基本について学ぶ。			
7	演習	スタジオにおけるミキサーとレコーダーの回線システムについて学ぶ。			
8	演習	デジタルオーディオについて学び、レコーディング時に気をつけなければならない事項を知る。			
9	演習	Micの基礎知識を学ぶ。			
10	演習	CUEシステムについて学び、レコーディングがどのように進められるのかを知る。			
11	演習	AUX機能について学び、エフェクターを使えるようになる。			
12	演習	INSERT機能について学び、エフェクターを使えるようになる。			
13	演習	ミュージシャンを迎え、これまでに学んだ知識を活かして実際にレコーディングを実践する。			
14	演習	ワークショップ			
15	演習	ワークショップ			
準備学習 時間外学習	<p>これまでに「聞」いてきた様々な楽曲を「聴」き直してください。これから出会う楽曲は「聴」きましょう。どんな楽曲にどんな楽器が使われていて、そのサウンドで自分がどんな気持ちになるのか、他のリスナーはどんな気持ちになるだろうか？と考えながら聴いてください。歌詞を読み、作詞家・作曲者はその楽曲で何を表現したいのか？アレンジャー・プレイヤーは作詞家・作曲者の表現したいものをどのように表現しているのか？それらをエンジニアはどのようにレコーディングし、ミキシングしたのか？様々なことを想像して聴いてください。意味のない音は鳴っていません。正解は分からないかも知れませんが、そうやって音を聴いて考えることが、いつか自分がエンジニアとして制作に携わる時の下敷きになります。スタジオの様々な機材を使って、自分がどんなサウンドを奏でたいのかを養って行きましょう。</p>				
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%)	授業内での実習に関わる姿勢 (60%) と、課題の提出 (40%) で評価します。 1. 実技試験 0% 2. 筆記試験 0% 3. 課題 40%			
教材	教科書	なし			
	参考書	なし			
学生への メッセージ	<p>技術的な専門用語が多く、難しい授業の印象を受けますと思いますが、出来るだけ易しく説明をします。分からないところはどんどん質問してください。後に見返した時に自分への教科書になるように、ノートをとってください。</p>				

## 音楽ビジネス研究科 シラバス

科目名	サウンドエンジニアリング研究演習(プロツールズ)	担当教員名	福岡 直子	
時間数	60	必修・選択	配当年次	1年次 前期
曜日・時限			教室	501
授業の到達目標	Pro Toolsの基本操作の習得、コンピューターの基礎知識の習得			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する音楽制作における「DAW」。そのシステムで使用されるアプリケーションの一つである「Pro Tools」を中心に、付随する周辺機器、関連アプリケーション、コンピューターの知識、ファイル管理の基礎を習得。			
	【実務経験】2000年大阪スクールオブミュージック専門学校を卒業後、VISTA STUDIOに2年勤務、2002年からアルケミースタジオに所属。サウンドエンジニアとして様々なアーティストのレコーディング、ミックス、マスタリングを手掛ける。			
回数	授業形態	内容		
1	演習	DAW(Pro Tools、コンピューター、周辺機器)とは？、実習室の信号の流れについて学ぶ。		
2	演習	Pro Toolsのファイル(セッション)を作成、保存。必要な各種設定を学ぶ。		
3	演習	Pro Toolsのファイル(セッション)を開く。「ミックス」画面構成を学ぶ。		
4	演習	「編集」画面 編集モード、編集ツール、スマートツール、編集コマンド。音声データ編集実践		
5	演習	音声ファイル形式(応用)。セッションの保存(応用)を学ぶ。		
6	演習	遅延(レイテンシー)について(AD/DA、遅延補正)。DAWでの「録音」について学ぶ。		
7	演習	「ミックス」画面トラック構成、「編集」画面 オフラインオートメーションを学ぶ。		
8	演習	プラグイン、エクスポートの種類(オーディオ、MIDI)、バウンスを学ぶ。		
9	演習	課題のレコーディング、ミックス		
10	演習	課題のレコーディング、ミックス		
11	演習	課題のレコーディング、ミックス		
12	演習	課題提出		
13	演習	前期総復習		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	毎回授業内容を復習して、次の授業に反映させる習慣を身につけましょう			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	3)課題 100%		
教材	教科書			
	参考書	音響設備マニュアルなど		
学生への メッセージ	コンピューターに慣れていなくても、手順に沿って進めると基本操作が身につきます。  経験者は今までの知識の再確認と、さらなるスキルアップを目指しましょう。			



## 音楽ビジネス研究科 シラバス

科目名	サウンドエンジニアリング研究演習(プロツールズ)		担当教員名	福岡 直子
時間数	60	必修・選択	配当年次	1年次 後期
曜日・時限			教室	501
授業の到達目標	Pro Toolsの基本操作の習得、コンピューターの基礎知識の習得			
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する音楽制作における「DAW」。そのシステムで使用されるアプリケーションの一つである「Pro Tools」を中心に、付随する周辺機器、関連アプリケーション、コンピューターの知識、ファイル管理の基礎を習得。</p> <p>【実務経験】2000年大阪スクールオブミュージック専門学校を卒業後、VISTA STUDIOに2年勤務、2002年からアルケミースタジオに所属。サウンドエンジニアとして様々なアーティストのレコーディング、ミックス、マスタリングを手掛ける。</p>			
回数	授業形態	内容		
1	演習	DAW(Pro Tools、コンピューター、周辺機器)とは？、実習室の信号の流れについて学ぶ。		
2	演習	Pro Toolsのファイル(セッション)を作成、保存。必要な各種設定を学ぶ。		
3	演習	Pro Toolsのファイル(セッション)を開く。「ミックス」画面構成を学ぶ。		
4	演習	「編集」画面 編集モード、編集ツール、スマートツール、編集コマンド。音声データ編集実践		
5	演習	音声ファイル形式(応用)。セッションの保存(応用)を学ぶ。		
6	演習	遅延(レイテンシー)について(AD/DA、遅延補正)。DAWでの「録音」について学ぶ。		
7	演習	「ミックス」画面トラック構成、「編集」画面 オフラインオートメーションを学ぶ。		
8	演習	プラグイン、エクスポートの種類(オーディオ、MIDI)、バウンスを学ぶ。		
9	演習	課題のレコーディング、ミックス①		
10	演習	課題のレコーディング、ミックス②		
11	演習	課題のレコーディング、ミックス③		
12	演習	課題提出		
13	演習	前期総復習		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	毎回授業内容を復習して、次の授業に反映させる習慣を身につけましょう			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	3)課題 100%		
教材	教科書			
	参考書	音響設備マニュアルなど		
学生への メッセージ	<p>コンピューターに慣れていなくても、手順に沿って進めると基本操作が身につきます。</p> <p>経験者は今までの知識の再確認と、さらなるスキルアップを目指しましょう。</p>			

## 音楽ビジネス研究科 シラバス

科目名	コンピューター研究演習(デザイン)		担当教員名	澤本美代子
時間数	30	必修・選択	配当年次	1年次 前期
曜日・時限			教室	601教室
授業の到達目標	PCの各種アプリケーションの操作を学び、デジタルデータを目的に合わせて活用できるようになる。課題制作を通じて、仕事のワークフローを理解する。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する教科書を用いた講義とPC・iPad等マルチデバイスを使つての各種アプリケーションの使い方を学習する。素材の入手、加工を含め、データの扱い方を学び、各種制作物の演習で実践方法を学ぶ。			
【実務経験】	出版社の制作部門でディレクションを担当。アナログから完全デジタルデータ入稿への移行を通じ、各種アプリケーションを習得。			
回数	授業形態	内容		
1	演習	授業概要、601教室の使い方、Macの基本操作、グラフィックアプリ(ドロー系とペイント系)の知識		
2	演習	各種デバイスのデータのPCへの転送方法(ギガファイル便の活用)、ファイル形式		
3	演習	イラストレーターの基本操作(画像配置・文字入力)		
4	演習	フォトショップの基本操作(レイヤー・解像度)、写真のリサイズ		
5	演習	ハガキサイズのデザイン(写真配置・クリッピングマスク・文字マスク)		
6	演習	チケット、配置図の作り方(選択ツールとダイレクト選択ツール)		
7	演習	色の学習(カラーモード)、グラデーション		
8	演習	写真画像の色調補正の基礎		
9	演習	フリー素材の活用(素材サイトの使い方、加工)		
10	演習	画像加工をメインとしたフライヤーの作成		
11	演習	画像加工をメインとしたフライヤーの作成		
12	演習	画像加工をメインとしたフライヤーの作成		
13	演習	前期試験(課題制作)		
14	演習	前期試験(課題制作)		
15	演習	フィードバック、前期のまとめ解説		
準備学習 時間外学習	各種画像データの準備。 課題制作用のデータ、各種プロジェクトの制作物で積極的に実践・復習する。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	課題100%		
教材	教科書	Illustrator CS6、Photoshop CS6(VISTA ARTS発行)		
	参考書			
学生への メッセージ	PC、タブレット、スマートフォンとマルチデバイスを活用出来るスキルは大きな強みになります。使用方法だけでなく、デジタルデータの扱い方、ワークフローを通じて仕事の流れ、役割も理解していきましょう。			

## 音楽ビジネス研究科 シラバス

科目名	コンピューター研究演習(デザイン)		担当教員名	澤本美代子
時間数	30	必修・選択	配当年次	1年次 後期
曜日・時限			教室	601教室
授業の到達目標	PCの各種アプリケーションの操作を学び、デジタルデータを目的に合わせて活用できるようになる。課題制作を通じて、仕事のワークフローを理解する。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する教科書を用いた講義とPC・iPad等マルチデバイスを使っての各種アプリケーションの使い方を学習する。素材の入手、加工を含め、データの扱い方を学び、各種制作物の演習で実践方法を学ぶ。			
【実務経験】	出版社の制作部門でディレクションを担当。アナログから完全デジタルデータ入稿への移行を通じ、各種アプリケーションを習得。			
回数	授業形態	内容		
1	演習	イラストレーターの応用操作(画像配置・文字入力)		
2	演習	イラストレーターの応用操作(画像配置・文字入力)		
3	演習	イラストレーターの応用操作(画像配置・文字入力)		
4	演習	フォトショップの基本操作(レイヤー・解像度)、写真のリサイズ		
5	演習	ハガキサイズのデザイン(写真配置・クリッピングマスク・文字マスク)		
6	演習	チケット、配置図の作り方(選択ツールとダイレクト選択ツール)		
7	演習	色の学習(カラーモード)、グラデーション		
8	演習	写真画像の色調補正の基礎		
9	演習	フリー素材の活用(素材サイトの使い方、加工)		
10	演習	フリー素材の活用(素材サイトの使い方、加工)		
11	演習	フリー素材の活用(素材サイトの使い方、加工)		
12	演習	画像加工をメインとしたフライヤーの作成		
13	演習	画像加工をメインとしたフライヤーの作成		
14	演習	後期試験(課題制作)		
15	演習	フィードバック、前期のまとめ解説		
準備学習 時間外学習	各種画像データの準備。 課題制作用のデータ、各種プロジェクトの制作物で積極的に実践・復習する。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	課題100%		
教材	教科書	Illustrator CS6、Photoshop CS6(VISTA ARTS発行)		
	参考書			
学生への メッセージ	PC、タブレット、スマートフォンとマルチデバイスを活用出来るスキルは大きな強みになります。使用方法だけでなく、デジタルデータの扱い方、ワークフローを通じて仕事の流れ、役割も理解していきましょう。			

## 音楽ビジネス研究科 シラバス

科目名	作曲・編曲研究演習(作曲技法1)	担当教員名	横野 康平
時間数	60	必修・選択	配当年次
曜日・時限			1年次 前期
		教室	606・501
授業の到達目標	DTMの仕組みと基本的使い方の習得。各自使用しているDAWのヒントにする。		
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する用意した楽曲(課題曲)のテーマになっている事柄を含むパートを虫食いにして各自講義後穴を埋める(不足パートを制作する)。またその際学校に用意されているサードパーティー音源の使い方もレクチャーする。</p> <p>【実務経験】10年以上現役でJ-pop K-popの作曲編曲活動を行なっている。講師活動は4年以上。</p>		
回数	授業形態	内容	
1	演習	基本操作、ドラム音源の仕組み、ドラムの打ち込みが出来るようになる	
2	演習	コードの仕組みを理解し素早く打ち込むことが出来るようになる	
3	演習	ベースやギターの入った楽曲を元に素早く構成を作れるようになる	
4	演習	HIPHOPなどのコードがグループしている楽曲構成を素早く作れるようになる	
5	演習	シンセサイザーの仕組みを理解し簡単な音色などは自分で作れる様になる	
6	演習	アルペジエーターを学び楽曲に彩りを加えられるようになる	
7	演習	Pad,bell,stringsなどを使って曲に華やかさを加えられるようになる	
8	演習	参考音源を使ってオートメーションを学び曲に変化を加えられるようになる	
9	演習	SEについて学び楽曲を派手に聴かせれるようになる	
10	演習	サンプリングを習得しLoop素材などをカスタマイズ出来るようになる	
11	演習	トラックメイカー目線でのミックスを学び個性を出せるようになる1(色々なサイドチェイン)	
12	演習	トラックメイカー目線でのミックスを学び個性を出せるようになる2(音色のレイヤー&mix)	
13	演習	1コーラスラフデモ制作テスト	
14	演習	(ワークショップ)	
15	演習	(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習	各ソフトウェアのオンラインマニュアルなどを読んでおく		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	授業態度30% 楽曲クオリティ70%	
教科書	教科書	データ又は動画	
	参考書	データ又は動画	
学生への メッセージ	一からの授業になります。各自のレベルは気にせず知りたいことがあればどんどん質問しに来てください。		

## 音楽ビジネス研究科 シラバス

科目名	作曲・編曲研究演習(作曲技法2)	担当教員名	横野 康平
時間数	60	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	DTMの仕組みと基本的使い方の習得。各自使用しているDAWのヒントにする。		
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する用意した楽曲(課題曲)のテーマになっている事柄を含むパートを虫食いにして各自講義後穴を埋める(不足パートを制作する)。またその際学校に用意されているサードパーティー音源の使い方もレクチャーする。</p> <p>【実務経験】10年以上現役でJ-pop K-popの作曲編曲活動を行なっている。講師活動は4年以上。</p>		
回数	授業形態	内容	
1	演習	Maschineの概要説明Sampler内にある機能の紹介,Drum synthを使って常識にとらわれないDrumKitを作りビート作り。	
2	演習	MaschineのAudioのLoopModeの説明とアイデアの考案、Note modeを使って直感的なトラックメイキングに挑戦。レイヤーテクニックの紹介。	
3	演習	海外研修	
4	演習	Maschineでベースラインとメロディーの打ち込み。	
5	演習	Maschine内でアレンジを完成させる。Slice方法の紹介。	
6	演習	Maschineで作った素材の書き出し方、Ableton Linkでの同期方法、FXの使用例と作り方。Macroの設定方法。Automationの書き方	
7	演習	Ableton Liveの概要 session viewとarrangement viewの連動のさせかたを知る。いくつかLoopを作って展開を作ってみる	
8	演習	Ableton Liveの概要 session viewとarrangement viewの連動のさせかたを知る。いくつかLoopを作って展開を作ってみる	
9	演習	Ableton Live Launch機能の説明と習得1- Launch Modeを使ってサンプラーっぽく使ってみる	
10	演習	Ableton Live Launch機能の説明と習得2- Launch Modeを使ってランダムイズだけでフレーズを作ってみる。	
11	演習	Ableton Live内の"wabtable"の基本的な使い方からアフタータッチなどのMIDI control設定まで理解する。	
12	演習	MacroやMap機能またMaxForLiveなどを使ってエフェクターやシンセを拡張する術とAbletonのオートメーションを学ぶ。	
13	演習	1コーラスラフデモ制作テスト	
14	演習	ワークショップ	
15	演習	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	各ソフトウェアのオンラインマニュアルなどを読んでおく		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	授業態度30% 楽曲クオリティ70%	
教科書	教科書	データ又は動画	
	参考書	データ又は動画	
学生への メッセージ	一からの授業になります。各自のレベルは気にせず知りたいことがあればどんどん質問しに来てください。		

## 音楽ビジネス研究科 シラバス

科目名	作曲・編曲研究演習(作曲技法3)	担当教員名	西田 和史
時間数	60	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	DAWの扱い方と様々な制作スタイルを身に付け、作品に応じて様々な制作手法を考えられるようになる。ミキシングやシンセサイザーによるサウンド加工の方法を習得し、アレンジや作曲において自身でディレクションやプロデュースを行うための感覚を養う。		
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する DAWを使用して、様々なスタイルのサウンド、楽曲を制作する。またその為に必要な技術、知識を習得し、応用までを実践する。 【実務経験】1994年大阪スクールオブミュージック専門学校卒業。劇団神戸及び、スタジオアクアにてマニピュレーター、エンジニアとして活動。2000年よりPowerFXなど海外サウンドデベロッパーに数多くのサウンドを提供。グリッチ、アンビエント系サウンドを得意とするクリエイター。1996年よりインストラクターとしても活動。		
回数	授業形態	内容	
1	演習	作曲におけるDAWの活用方を知り、自身の制作イメージを形作る。	
2	演習	DAWにおけるドラムの入力。ビートの理解。音色による楽曲の変化。	
3	演習	メロディーとコードの実践的な入力方法。コードアレンジへのDAWの利用法。	
4	演習	各トラック・楽器の楽曲での役割を考え、音量・定位・ルーティングなどの設定を行う。	
5	演習	楽曲の全体像を作るため、作曲のための楽器演奏シミュレーション。	
6	演習	4リズムでの楽曲制作。実践的なトラックメイキングの流れを理解する。	
7	演習	自作曲のリアレンジ・リミックスを行い様々な変化をコントロールする。	
8	演習	様々な楽器のコンビネーションにおけるグループコントロール。	
9	演習	サウンド変化によるグループコントロール。ダンストラック・ベースミュージックの作成	
10	演習	シンセサイザー・サンプラーの詳細を理解し、自作曲への応用する。	
11	演習	エフェクターによるサウンドクオリティーのアップと表現方法。	
12	演習	音響知識を学び、アレンジ・MIXの実践力に結びつける。	
13	演習	自身の楽曲をこれまでに学んだ観点から分析する。ビート、コード、周波数分布、MIXなど。	
14	演習	ワークショップ	
15	演習	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	生活の中に作曲、楽曲制作を組み込んでください。		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	3.課題 100%	
教科書	教科書		
	参考書		
学生への メッセージ	DAWやコンピュータを使った作曲・制作方法をマスターします。自身や楽曲にどんな可能性があるので楽しみましょう。		

## 音楽ビジネス研究科 シラバス

科目名	作曲・編曲研究演習(作曲技法4)	担当教員名	西田 和史
時間数	60	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	DAWの扱い方と様々な制作スタイルを身に付け、作品に応じて様々な制作手法を考えられるようになる。ミキシングやシンセサイザーによるサウンド加工の方法を習得し、アレンジや作曲において自身でディレクションやプロデュースを行うための感覚を養う。		
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する DAWを使用して、様々なスタイルのサウンド、楽曲を制作する。またその為に必要な技術、知識を習得し、応用までを実践する。 【実務経験】1994年大阪スクールオブミュージック専門学校卒業。劇団神戸及び、スタジオアクアにてマニピュレーター、エンジニアとして活動。2000年よりPowerFXなど海外サウンドデベロッパーに数多くのサウンドを提供。グリッチ、アンビエント系サウンドを得意とするクリエイター。1996年よりインストラクターとしても活動。		
回数	授業形態	内容	
1	演習	自己作品を分析。課題の確認と設定。前期の復習など	
2	演習	アナログシンセの使用法。音色制作。シンセベースなど	
3	演習	参考曲の楽器の聞き分け、再現方法の選択、アレンジの確認。	
4	演習	参考曲のフレーズ・音色やミックスの再現	
5	演習	参考曲のフレーズ・音色やミックスの再現	
6	演習	メロディーとベースの主要音からコード進行を確認する。	
7	演習	コード楽器の音色加工をしつつ、バックアップパターンを作る。定番音色やバックアップパターンの確認。	
8	演習	ミックスを考えた、バックアップ作成。定番のミックス方法など	
9	演習	自作曲の分析と課題の確認	
10	演習	周波数での音の棲みわけや、音の配置。FM音源やグラニューラシンセなどについて。	
11	演習	ディレイ、フィルター、ダイナミクス、モジュレーション系エフェクターについて	
12	演習	ボーカルミックス、ステム・グループの管理、音量・音圧のコントロール	
13	演習	基本技術の確認と実践的な使用。様々な技術の応用とコンビネーション。	
14	演習	ワークショップ	
15	演習	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	生活の中に作曲、楽曲制作を組み込んでください。		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	3.課題 100%	
教科書 参考書	教科書		
	参考書		
学生への メッセージ	DAWやコンピュータを使った作曲・制作方法をマスターします。自身や楽曲にどんな可能性があるので楽しみましょう。		

## 音楽ビジネス研究科 シラバス

科目名	作曲・編曲研究演習(作詞技法Ⅰ)	担当教員名	木下 智哉
時間数	30	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	601		
授業の到達目標			
作詞に関する基礎知識の習得。			
授業の内容			
※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する			
作詞のベーシックを覚える。作詞の制作行程を段階にわけて学ぶ。言葉探しの技を学ぶ。 【実務経験】作詞・作曲・編曲・サウンドプロデューサー／SCOOP MUSIC所属。／2000年、エレポップ三人組ユニット「epidemic」でポニーキャニオンからデビュー。5年に及ぶユニット活動休止後、作家として活動を開始。関西を拠点に作詞、作曲、プロデュース等を手がける。／浜崎あゆみ、中川翔子、V6、NEWS、HeySayJump、AAA等の数々のアーティストへの楽曲提供やアニメの音楽制作などを手がける。			
日程	授業形態	内容	
1	講義	授業概要／作詞概論	
2	講義	作詞技法.1／作詞基礎、自分言葉の認識	
3	講義	作詞技法.2-1／言葉の連想法／類語の使い方	
4	講義	作詞技法.2-2／字数の変更トレーニング／類語トレーニング	
5	講義	作詞技法.3／字数と1音の使い方	
6	講義	作詞技法.4／ワンワードからの連想による構成の作り方	
7	講義	作詞技法.5-1／5W1Hの法則、起承結の構成	
8	講義	作詞技法.5-2／起承結を使ったワンコーラス作詞制作	
9	講義	作詞技法.5-3／起承結を使ったワンコーラス作詞制作／添削	
10	講義	作詞技法.6／言葉のリズムとブロック／言葉のダイエット	
11	講義	作詞技法.7-1／比喻表現、擬人化	
12	講義	作詞技法.7-2／比喻表現トレーニング／添削	
13	講義	作詞技法.8／タイトルのつけ方	
14	講義	ワークショップ	
15	講義	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	課題制作用に渡されたデータを整理し、授業外の時間で積極的に復習に使用する		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	3. 課題100%	
教材	教科書	授業時に配布するプリント各種。	
	参考書	なし	
学生への メッセージ	言葉を意識して探す、そのトレーニングを積んでいきましょう。		



## 音楽ビジネス研究科 シラバス

科目名	作曲・編曲研究演習(作詞技法Ⅰ)	担当教員名	木下 智哉
時間数	30	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	作詞に関する基礎知識の習得。		
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 作詞のベーシックを覚える。作詞の制作行程を段階にわけて学ぶ。言葉探しの技を学ぶ。 【実務経験】作詞・作曲・編曲・サウンドプロデューサー／SCOOP MUSIC所属。／2000年、エレポップ三人組ユニット「epidemic」でポニーキャニオンからデビュー。5年に及ぶユニット活動休止後、作家として活動を開始。関西を拠点に作詞、作曲、プロデュース等を手がける。／浜崎あゆみ、中川翔子、V6、NEWS、HeySayJump、AAA等の数々のアーティストへの楽曲提供やアニメの音楽制作などを手がける。		
日程	授業形態	内容	
1	演習	作詞技法.10／ジャンル別による表現法／ラップ、韻について／韻化トレーニング	
2	演習	韻化トレーニング／Rap詞制作	
3	演習	Rap詞制作／添削 /感想の書き合い	
4	演習	作詞技法.11／童謡、キッズソングに見る作詞法	
5	演習	キッズソング作成トレーニング	
6	演習	作詞技法.12／英語詞と日本語詞を混ぜたハイブリッド作詞法	
7	演習	ハイブリッド作詞トレーニング1コーラス、字数の確認	
8	演習	作詞技法.13／CMソングに見る作詞法 /CMソング作成トレーニング	
9	演習	CMソング作成トレーニング／添削&提出	
10	演習	OUTPUTレビュー.2 /価値観アンケート	
11	演習	作詞実践.3／フルコーラス制作	
12	演習	作詞実践.3／フルコーラス制作 /添削 /感想の書き合い	
13	演習	作詞技法まとめトレーニング集	
14	演習	ワークショップ	
15	演習	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	課題制作用に渡されたデータを整理し、授業外の時間で積極的に復習に使用する		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	3. 課題100%	
教材	教科書	授業時に配布するプリント各種。	
	参考書	なし	
学生への メッセージ	言葉を意識して探す、そのトレーニングを積んでいきましょう。		

## 音楽ビジネス研究科 シラバス

科目名	作曲・編曲研究演習(アレンジ技法Ⅰ)		担当教員名	小林 哲
時間数	30	必修・選択	配当年次	1年次 前期
曜日・時限		必修	教室	803
授業の到達目標	読譜能力、基礎理論の習得。自作曲への応用。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 曲作りにダイレクトに活用、応用できるポピュラー音楽理論の習得。(音名～Scale、Interval) 【実務経験】作編曲家。1998年のデビュー以降、ZARDをはじめビーイング系アーティストの編曲を数多く手がける。1999年より母校でもある大阪スクールオブミュージック専門学校にて作、編曲の講師を務め現在に至る。Steinberg 認定講師。			
回数	授業形態	内容		
1	演習	音名、音部記号の学習		
2	演習	派生音、音休符の種類		
3	演習	拍子		
4	演習	速度記号、反復記号		
5	演習	略記号、奏法記号、装飾記号、強弱記号		
6	演習	Major Scale		
7	演習	Major Scale、5度圏、調号		
8	演習	導音、Natural Minor Scale		
9	演習	Harmonic Minor Scale、Melodic Minor Scale		
10	演習	Scaleまとめ、Interval		
11	演習	Interval、複音程		
12	演習	総復習		
13	演習	前期内容について、筆記試験		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	講義内容を音でも確認する。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	2、筆記試験 100%		
教材	教科書			
	参考書			
学生への メッセージ	音楽家として必要な知識を得る為の科目です。 音楽家同士の共通言語として、コミュニケーションをスムーズに行う為の 必須アイテムとも言えます。 真剣に取り組んで下さい。			

## 音楽ビジネス研究科 シラバス

科目名	作曲・編曲研究演習(アレンジ技法 I)		担当教員名	小林 哲
時間数	30	必修・選択	配当年次	1年次 後期
曜日・時限		必修	教室	803
授業の到達目標	読譜能力、基礎理論の習得。自作曲への応用。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 曲作りにダイレクトに活用、応用できるポピュラー音楽理論の習得。(音名～Scale、Interval) 【実務経験】作編曲家。1998年のデビュー以降、ZARDをはじめビーイング系アーティストの編曲を数多く手がける。1999年より母校でもある大阪スクールオブミュージック専門学校にて作、編曲の講師を務め現在に至る。Steinberg 認定講師。			
回数	授業形態	内容		
1	演習	基礎理論の学習		
2	演習	基礎理論の学習		
3	演習	基礎理論の学習		
4	演習	基礎理論の学習		
5	演習	基礎理論の学習		
6	演習	基礎理論の学習		
7	演習	基礎理論の学習		
8	演習	既存曲を分析し、効果的なDiatonic Chordの使い方を学ぶ		
9	演習	既存曲を分析し、効果的なDiatonic Chordの使い方を学ぶ		
10	演習	基礎理論の学習		
11	演習	基礎理論の学習		
12	演習	後期内容の復習		
13	演習	後期内容についてのレポート作成		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	講義内容を音でも確認する。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	2、筆記試験 100%		
教材	教科書			
	参考書			
学生への メッセージ	音楽家として必要な知識を得る為の科目です。 音楽家同士の共通言語として、コミュニケーションをスムーズに行う為の 必須アイテムとも言えます。 真剣に取り組んで下さい。			

## 音楽ビジネス研究科 シラバス

科目名	作曲・編曲研究演習(作詞技法Ⅱ)	担当教員名	木下 智哉
時間数	30	必修・選択	配当年次
曜日・時限		選択	教室
授業の到達目標	制作スピードの向上、制作スキルの向上、柔軟な対応力の強化。		
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>作詞の実践。様々な楽曲ジャンルの作詞の制作を行い、商業音楽制作における対応力を養う。</p> <p>【実務経験】作詞・作曲・編曲・サウンドプロデューサー／SCOOP MUSIC所属。／2000年、エレポップ三人組ユニット「epidemic」でポニーキャニオンからデビュー。</p> <p>5年に及ぶユニット活動休止後、作家として活動を開始。</p> <p>関西を拠点に作詞、作曲、プロデュース等を手がける。／浜崎あゆみ、中川翔子、V6、NEWS、HeySayJump、AAA等の数々のアーティストへの楽曲提供やアニメの音楽制作などを手がける。</p>		
日程	授業形態	内容	
1	演習	授業概要／作詞課題1／スピード作詞vol.1	
2	演習	課題.1の添削&掘り下げ／作詞課題.2／スピード作詞vol.2	
3	演習	課題.2の添削&掘り下げ	
4	演習	作詞課題.3／キャラの引き継ぎ作詞	
5	演習	課題.3の添削&掘り下げ	
6	演習	作詞課題.4／イメージ作詞	
7	演習	課題.4の添削&掘り下げ	
8	演習	作詞課題.5／世界観作詞	
9	演習	課題.5の添削&掘り下げ	
10	演習	作詞課題.6／アイドル作詞	
11	演習	課題.6の添削&掘り下げ	
12	演習	作詞課題.7／スピード作詞vol.3	
13	演習	課題.7の添削&掘り下げ	
14	演習	ワークショップ	
15	演習	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	制作時間内に書き上がらなかった場合は、持ち帰っての制作あり。		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	3. 課題100%	
教材	教科書	授業時に配布するプリント各種。	
	参考書	なし	
学生への メッセージ	量が質を生みます。たくさん書きましょう。		

## 音楽ビジネス研究科 シラバス

科目名	作曲・編曲研究演習(作詞技法Ⅱ)	担当教員名	木下 智哉
時間数	30	必修・選択	配当年次
曜日・時限		選択	教室
授業の到達目標	制作スピードの向上、制作スキルの向上、柔軟な対応力の強化。		
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>作詞の実践。様々な楽曲ジャンルの作詞の制作を行い、商業音楽制作における対応力を養う。</p> <p>【実務経験】作詞・作曲・編曲・サウンドプロデューサー／SCOOP MUSIC所属。／2000年、エレポップ三人組ユニット「epidemic」でポニーキャニオンからデビュー。</p> <p>5年に及ぶユニット活動休止後、作家として活動を開始。</p> <p>関西を拠点に作詞、作曲、プロデュース等を手がける。／浜崎あゆみ、中川翔子、V6、NEWS、HeySayJump、AAA等の数々のアーティストへの楽曲提供やアニメの音楽制作などを手がける。</p>		
日程	授業形態	内容	
1	演習	コンペの発注書から楽曲の制作方向を読み取る／作詞からのアプローチを考える	
2	演習	イメージ作詞 / 漫画・映像からのインスピレーションで作詞する	
3	演習	イメージ作詞 / (完成・提出) / 添削・感想書き合い / 楽曲アナライズ1	
4	演習	コンペの発注書から楽曲の制作方向を読み取る／作詞からのアプローチを考える	
5	演習	シーズンもの作詞 / 季節のイベントにあわせて作詞する	
6	演習	シーズンもの作詞 / (完成・提出) / 添削・感想書き合い	
7	演習	コンペの発注書から楽曲の制作方向を読み取る／作詞からのアプローチを考える	
8	演習	タイアップ案件 / 実際の発注書から、オーダーを読み解き作詞する	
9	演習	タイアップ案件 / (完成・提出) / 添削・感想書き合い / 楽曲アナライズ2	
10	演習	アルバム案件 / 実際の発注書から、オーダーを読み解き作詞する	
11	演習	アルバム案件 / (完成・提出) / 添削・感想書き合い	
12	演習	作詞プロデュース.1> 企画書、キャラクターコンセプト制作、楽曲イメージ作成	
13	演習	作詞プロデュース.1> 制作／発表	
14	演習	ワークショップ	
15	演習	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	制作時間内に書き上がらなかった場合は、持ち帰っての制作あり。		
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%)	3. 課題100%	
教材	教科書	授業時に配布するプリント各種。	
	参考書	なし	
学生への メッセージ	量が質を生みます。たくさん書きましょう。		